

がいこくせきけんみん かながわ かいぎ だい き だい かい かいぎさんかしゃ いけんがいよう  
外国籍県民かながわ会議（第12期・第8回）オープン会議参加者の意見概要

じょうほうぶかい  
1 情報部会

かながわけん がいこくせきけんみん たい じょうほうていきょう かんりかいぜん  
<神奈川県HPの外国籍県民に対する情報提供の管理改善>

- ・ じょうほう じゅうよう よこはまし こうほうし み ことし まんえん きゅうふきん  
情報 は 重要。横浜市 の 広報紙 を 見て 今年 の 7 万円 の 給付金 について  
し  
知 った が、この 情報 が なか った ら 給付金 の こと は 分 け ず なか った。
- ・ じょうほうていきょう かいぜん よ ち おも とく  
情報 提供 という チャネル を 改善 する 余地 は ある と 思 っ て お り、特 に  
たいせつ じょうほう がいこくせきけんみん しゅうち ひつよう おも  
大 切 な 情 報 は 外 国 籍 県 民 に 周 知 する 必 要 が ある と 思 っ ち ます。
- ・ トップページのコンテンツメニューに「外国籍県民へ」をついか か  
て である が、日 本 語 で 追 加 する の か。
- ・ やさしい にほんご か にほんご よ かた つた わら ない。  
日 本 語 で 書 いて も、日 本 語 が 読 め ない 方 に は 伝 わ ら ない。
- ・ よこはまし  
横浜市 の トップページ の よう に、「Language」の ボタン から 各 言 語 の  
み かくげんご  
ページ が 見 ら れ る 構 成 が 望 ま し い。
- ・ かなら  
必 ず パソコン で ホームページ を 見 る と は 限 ら ない の で、スマートフ  
オン での 見 え 方 が パソコン と 違 う こと に は 注 意 し た 方 が よ い。
- ・ よこはまし  
横浜市 の ホームページ の 「Language」 ボタン は、パソコン で 見 る と  
ひょうじ  
表 示 さ れ る が、携 帯 で 見 る と（トップページ 上 部 に は）表 示 さ れ ない。
- ・ がいしゅつさき こま み けん ていげん さい  
外 出 先 など で 困 っ た と き に も 見 ら れ る よう、県 に 提 言 する 際 は、  
りょうほう み ていあん ほう  
両 方 で 見 ら れ る よう に し て ほ し い と 提 案 し た 方 が よ い。

しょうがくせい ちゅうがくせいむ にほんご きょうしつ  
<小学生、中学生向けの日本語のオンライン教室>

- ・ きょうか がく しゅう しえん にほんご してん い  
教 科 学 習 の 支 援 に つ な が る 日 本 語 と い う 視 点 を 入 れ て い た だ き た い。  
にほんご たいおう きょうかしどう たいおう せんせい おお  
日 本 語 は 対 応 で き る が、教 科 指 導 に 対 応 で き ない と い う 先 生 は 多 く い る。
- ・ もんぶ がく しゅう ほうしん こ たんまつ はいび  
文 部 科 学 省 の 方 針 で、子 ども た ち に は GIGA 端 末 が 配 備 さ れ て い る が、  
こんきゅうかてい つか こうきょうしせつ むりょう つか しゅくだい  
困 窮 家 庭 は Wi-Fi を 使 え ず、公 共 施 設 で 無 料 の Wi-Fi を 使 っ て 宿 題 し  
すがた み きぼん ふく かなが  
て り 姿 を 見 る の で、基 盤 を 含 め て 考 え て い た だ け る と よ い。
- ・ とりくみ おも いそが ひとむ ほうしき しちよう  
よ い 取 組 だ と 思 っ ち ます。忙 し い 人 向 け に オンデマンド 方 式 で の 視 聴 や、  
ちゅうけい ばあい おお かた み じかん けんとう ほう  
中 継 の 場 合 に は 多 く の 方 が 見 ら れ る 時 間 を 検 討 し た 方 が よ い。

じせだい きょういくぶかい  
2 次世代・教育部会

かながわけん りつこうとうがっこう こくさいりかい かつどう そくしん じぎょう  
<神奈川県立高等学校における国際理解クラブ活動を促進するモデル事業>

- ・ こくさいりかい いっぽうてき してん たと い  
「国 際 理 解」だ と 一 方 的 な 視 点 に な る の で、例 え ば 「と も に 生 き る」、  
たぶん かきょうせい ほか めいしやう か ほう かん  
「多 文 化 共 生」な ど 他 の 名 称 に 変 え た 方 が よ い と 感 じ た。

- ・ 提言の受け手である高校や国際課に協力してほしいというスタンスだが、県民会議の委員がサポート・リードするという姿勢があるとよい。
- ・ 外国人には在留資格の問題がある。例えば、高校修了後に就職したいときや、結婚するときには在留資格の変更について悩む方もいる。
- ・ 在留資格が人生の道筋においてどういう意義があるかを、積極的に発信していくことが大切である。
- ・ 日本に居続けるには、お金をかけて対応する必要がある場合もあるし、お金がない人はどうするのかについても踏み込んでいけたらよいと思う。
- ・ このクラブで在留資格制度の理解向上ができるとうい。併せて、ネットワークづくりもクラブでできると助かると思う。
- ・ 専門家を呼ぶなどしてクラブで在留資格を共に学ぶといった新しい形で考えていただければと思う。
- ・ 自分たちの体験や思いを伝え、苦しんだことや嫌だったことをなくしていきたいというクラブのメンバーが出てくるかもしれない。
- ・ 学習支援教室に集まる外国につながる子どもたちに、自分の体験を伝える取組も考えていただくと、高校生も頑張れると思う。
- ・ 多文化共生のクラブや委員会がある学校はいくつかある。県の教育委員会や学校と連携し、クラブや委員会がある学校でどのような活動を行っているか、どのような対応が可能かを協議するとよい。
- ・ 1点注意してほしいのは、トップダウンにならないようにすること。生徒の自主性を大事にし、生徒がやりたいことを支える立場で取組を広げてほしい。また、学校でなく、横の連携も含めて取り組んでほしい。
- ・ まだ最終の提言ではないので、この時点で「本提案を受け入れ可能な県立高等学校の実態」を課題にする必要はないと思う。
- ・ 似たような取組を行っている情報を集め、取り組んでいない学校に当たっていかないと、事業が止まってしまう。短期的な計画として、学校を探すとした方が、現実的な取組になると思う。
- ・ 10代後半から20、30代くらいで日本に来た方は、日本社会に溶け込むのが難しい。原因の一つに、日本人は「受け入れる」というモチベーションがないことが考えられる。
- ・ かながわ国際ファンクラブのイベントに参加したことがあるが、日本人は年配者ばかり。国際理解や多文化共生に関する日本の若年層のモチベーションを、どのように上げていくかが課題だと思う。

### 3 社会福祉部会

#### <外国人の高齢化に向き合う支援（全般）>

- ・ 在留資格についても考える必要がある。日本人のパートナーが先に亡くなった場合、日本にいられなくなるが、パートナーが生きている間に、永住者になるか、帰化するなどすれば日本に滞在できる。
- ・ 介護の情報が届かないという課題もあるとは思うが、そもそも安心して滞在できない人がいるという問題がある。
- ・ 永住者の資格は、納税などを継続し、10年ほどの滞在があった後、ようやく得ることができる。
- ・ 現在、政府では、納税ができなくなったら永住資格を取り消せるようにする仕組みを検討している。
- ・ 在留資格に沿って生きている外国人は、追い出されるリスクがあるという視点でも考えていただければと思う。
- ・ 神奈川県社会福祉協議会の3年間の協働モデル助成事業で、多文化高齢社会ネットかながわの活動をしてきた。
- ・ 外国人当事者や相談支援を行っている方々にヒアリングした結果を参考にさせていただき、提言の検討につなげてもらえればと思う。

#### <外国人介護士コーディネーター制度導入について>

- ・ 40代から80代の外国人当事者のほとんどは、介護保険の制度を全く知らず、特に母国に介護の概念がない場合には、情報が伝わりにくい。
- ・ 高齢者施設のスタッフや支援者は、外国人の文化や背景、言語面でのサポートに関する情報が分からず、手探りな状態で苦勞されている。
- ・ まずは情報整備ということで、当事者も支援者も、ここに行けばすべてが分かるといった、ワンストップの仕組みが非常に大事である。
- ・ 言葉や文化の違いは難しい。説明にあった、コーディネーター制度についても提言していただければと思う。

#### <外国人高齢者の集いの場づくりについて>

- ・ 外国につながる方々は、御自身のコミュニティではつながっているが、隣りに住む人や、民生委員などとはつながっていない状況がある。地域といかにつながっているかが暮らしやすさにもつながると思う。

- ユッカの会では、中国出身の方に向けて介護の話などをしており、交流を含めて皆で学んでいくことが非常に大事である。
- 福祉と多文化が繋がっていないと感じた。県としても、福祉のセッションと協働してほしいところがある。
- 施設の人たちは、MIC かながわや YOKE など、国際交流の関係機関で通訳派遣をしていることを知らないため、周知や連携が必要である。
- 日本の施設に外国人が入ることで、日本人の常識や文化が変わっていく現状もあり、協働、交流することの意味を感じた。
- 「やさしい日本語」は、日本人と外国人をつなぐもので、外国人がやさしい日本語で「大丈夫ですよ」と言うことで、日本人が近づきやすくなるという機能もある言葉なので、学んでいただけると嬉しい。
- 主婦の視点が少ない。主婦は仕事をするために公共職業安定所に行くときも、夫に会社を休んでついてきてもらったり、病気になったときには子どもが学校を休んで一緒に病院に行ったりする現状がある。
- 年を取って夫がいなくなった場合、主婦のお金で日本の高齢施設に入居するのは難しく、老後の生活が大きな問題になる。
- 地域で活動していて、外国人介護士コーディネーター制度や外国人高齢者の集いの場に出会ったことはないので、進めていただきたい。